

令和6年度（2024年度） 事業実績報告書

1. 申請者の概要

| | | | |
|--|---------|------|------------------------------|
| 申請者 | 団体名 | | 富田林商工会 |
| | 代表者職・氏名 | | 会長 村元 保男 |
| | 所在地 | | 富田林市栗ヶ池町2969番地の5 |
| | 担当者 | 職・氏名 | 事務局長 寺内 一裕 |
| | | 連絡先 | TEL（直通）： 0721-25-1101 |
| | | | Fax： 0721-25-9009 |
| E-mail： info@tonshow.or.jp | | | |
| ①設立年月日 | | | 昭和37年7月22日 |
| ②職員数 （うち経営指導員数） | | | 9名（経営指導員9名）（令和7年3月31日現在） |
| ③所管地域 | | | 富田林市・河南町・太子町・千早赤阪村 |
| ④管内事業所数 | | | 4,427（令和3年度経済センサス） |
| ⑤管内小規模事業者数 | | | 3,017（令和3年度経済センサス） |
| ⑥会員数（組織率） | | | 1,849（組織率41.7%）（令和7年3月31日現在） |
| ※②、④、⑤、⑥については直近の数字を記載すること | | | |
| □主な事業概要（定款記載事項等） | | | |
| (1) 商工業に関し相談に応じ、又は指導を行うこと。 | | | |
| (2) 商工業に関する情報又は資料を収集し及び提供すること。 | | | |
| (3) 商工業に関する調査研究を行うこと。 | | | |
| (4) 商工業に関する講習会又は講演会を開催すること。 | | | |
| (5) 展示会・共進会等を開催し、又はこれらの開催の斡旋を行うこと。 | | | |
| (6) 商工業に関する施設を設置し維持し、又は運用すること。 | | | |
| (7) 商工会としての意見を公表し、これを国会、行政庁等に具申し、又は建議すること。 | | | |
| (8) 行政庁等の諮問に応じて答申すること。 | | | |
| (9) 社会一般の福祉の増進に資する事業を行うこと。 | | | |
| (10) 商工業者の委託を受けて当該商工業者が行うべき事務（その従業員のための事務を含む。）を処理すること。 | | | |
| (11) 大阪府商工会連合会の委託を受けて商工貯蓄共済事業の業務を行うこと。 | | | |
| (12) 商工業者の福利厚生に資する事業を行うこと。 | | | |
| (13) 行政庁から委託を受けた事務を行うこと。 | | | |
| (14) 輸出品の原産地証明を行うこと。 | | | |
| (15) 国際親善の増進を図ること。 | | | |
| (16) 職業紹介事業を行うこと。 | | | |
| (17) 前各号に掲げるもののほか、その他商工会の目的を達成するために必要な事業を行うこと。 | | | |

| |
|--|
| <p>(1) 事業の目標</p> |
| <p>令和6年度においては、多様な環境の変化に伴う、原材料、原油価格の高騰など経済は停滞感から抜け出せず小規模事業者を取り巻く環境は厳しく、先行きが不透明である。また、人口減少に伴う労働力の確保、地域市場の縮小による新たな販路の開拓など様々な課題解決に向けた取り組みが必要である。それらの状況を踏まえ、地域の事業者のニーズに沿った各種支援をリアルタイムで提供できる体制を整えるとともに、経営相談窓口を設置するなど課題解決に向けたサービスの提供を行うことを目標とした。また、当会経営指導員と専門家と連携を図りながら伴走型支援を実施することで、専門的且つ高度な支援を行うことができ、さらに、関係支援機関、各種専門家と連携を強化し、事業者のニーズに対応した各種事業を実施した。</p> |
| <p>(2) 事業を実施した具体的な内容、方法及び工夫した点</p> |
| <p>【経営相談事業】 経営基盤の構築に向けた金融相談支援、今後想定される南海トラフ地震への対応、リスクマネジメント等についてのBCP等作成支援に重点を置いた支援を実施した。</p> <p>【専門相談事業】 高度な内容の経営課題においては、専門的視点からの支援を要するため、専門家を窓口とした支援を実施した。</p> <p>【地域活性化事業】</p> <p>①小規模事業者の持続的発展の推進 地域産業を持続的発展させるため、「創業促進事業」を実施することで、地域産業の底上げを図った。また、「カーボンニュートラル・脱炭素推進事業」を実施し、持続可能な経済社会の実現の促進につなげた。</p> <p>②小規模事業者の新たな魅力の発見・創出、競争力の強化 新たな魅力の発見、創出、地域の魅力の再創出に重点を置いた「とんだばやしバル事業」や、自社ブランディングの構築を促進する「製品・商品・サービス魅力強化発信事業」を実施した。また、情報力の強化、DX化を推進することを目的に「ITツール活用支援事業」を実施することで自社の魅力向上に努めた。</p> <p>③新たな労働力の確保、職場環境整備を支援し、雇用の創出を図る。 人口減少からくる労働力の確保につながる「雇用管理労務対策セミナー」を実施。また、「求人、求職マッチング事業」の開催など働きやすい環境整備を推進することで、新たな雇用の創出につなげた。</p> <p>④地域資源を活用した特産品の開発等、インバウンド事業を引き出す観光開発支援 関西大阪万博に向け、地域資源の掘り起し、活用など観光資源を有効活用できるよう「地域ブランド開拓、情報発信事業」、南河内の特産品をブランディング化促進につなげる「南河内特産品ブランディング化推進事業」を実施。インバウンド需要に向けた商品開発、プロモーションを支援することで新たな販路の開拓につなげた。</p> |
| <p>(3) 事業を実施した効果、所管地域の活性化の状況</p> |
| <p>【経営相談事業】 小規模事業者が抱える様々な課題を窓口、巡回指導を通じて実態を把握し、課題解決に向けた支援を行った。事業者ニーズに迅速に対応するための経営相談窓口を設置したことで、事業者の課題解決に向けた支援をリアルタイムで実施することにより、伴走型支援を実施することができた。また、大阪府よろず支援拠点等と連携し、専門的分野についても効果的な支援ができたと思われる。さらに事業者が必要としている様々なニーズに迅速かつ的確に対応することで、地域での商工会の役割を果たすことができたと考える。</p> <p>【専門相談事業】 高度な内容の経営課題において専門的知識を有する専門家等が支援することで、迅速な課題解決につながった。</p> <p>【地域活性化事業】 創業の促進、雇用管理労務対策、DX化推進につながるようなITツールの活用、BCPの普及啓発、脱炭素の推進など小規模事業者のニーズを把握し、事業を実施したことで地域経済の活性化、経営力の向上につなげることができた。 今後も継続して地域経済の活性化につながるような事業を実施していきたいと考える。</p> |
| <p>(4) 事業を実施した結果浮かび上がった課題</p> |
| <p>多様な環境変化に伴う、原材料、原油価格の高騰や労働力不足など経済の目まぐるしい変化に対応しながら支援を実施したが、経営課題の把握、課題解決に向けたより細かな事業者ニーズに対応した経営支援が求められていると感じる。経営相談事業においてはより課題解決に向けたスピーディーかつ的確な支援、持続的な経営に向けた伴走型支援が求められる。地域活性化事業においては、事業者ニーズの把握、リアルタイムで必要とされるものを抽出し、事業に活かすことが必要である。</p> |
| <p>(5) 次年度の取り組み</p> |
| <p>今年度と同様に多様な環境変化に対応したマル経融資を基本とした金融支援を個社支援の重点項目に置き、引き続き経営基盤の整備につながる支援を行っていきたい。また、原材料、原油価格の高騰など外的要因による逼迫した経営状況の改善など経営の再構築につながる支援を実施していきたいと考える。また、多様化した事業者の課題解決に向け、より専門的な支援を実施していくとともに、関係支援機関、専門家団体と連携を図りながら伴走型支援を充実させていきたいと考える。今年度も経営指導員の資質の向上がより求められることから、経営指導に必要なスキルを習得できる仕組みづくりを行い若手経営指導員の資質の向上を図る。</p> |

3. 経営相談支援事業・専門相談支援事業 富田林商工会

| Ⅰ 経営相談支援事業 | | | | | | |
|--|-------|------|------|--------|--------|------|
| 支援のポイント・成果 | | | | | | |
| 管内は人口減少が進む中で、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日から5類感染症に移行されたものの、令和6年1月から3月にかけて感染者がまん延し、年度当初から経営継続に向け資金調達に関する支援希望者が増加した。経営低下の中で一般的な資金調達ではなく、経営改善計画や支援を伴う調達支援を提案したことで、年度末には回復が見られる事業者が多く見られた。また、令和6年1月に石川県能登半島を震源とする能登半島地震が発生し、近年に発生が予想される南海トラフ地震への危機管理意識が高まっている。内陸部であり津波より木造建築の大規模火災発生の被害が予想されるため、中大規模火災に特化したBCP支援の必要性を簡易相談で推進したことに伴い、年度初めから多くの支援希望があり、事業継続に向け経営資源の予備購入や分散保管など、他の災害でも不可欠な環境整備について意識化されたことで、今後の経営安定が期待できる。そのほか創業者を中心に記帳支援を実施し、事業内容の数値的把握の実現に向けた支援を実施する。 | | | | | | |
| 代表事例：営業活動費の捻出に向けた金融支援（指導型）での改善計画を模索した上で資金調達の支援や、販路開拓支援での展示会における営業ノウハウ指導、利益率自体の適正な把握に向けた記帳支援を実施した事で、令和6年度、展示会導入を創業後3年目の事業所が令和5年度790万円の売上が2348万円になるなど、約3倍に売上が増加した。 | | | | | | |
| 支援メニュー | 指標 | 目標数値 | 実績数値 | 達成率 | 事業評価 | |
| 事業所カルテ・サービス提案 | 事業所 | 339 | 339 | 100.0% | 5 | |
| 支援機関等へのつなぎ | 支援数 | 0 | 0 | | | |
| 金融支援（紹介型） | 支援数 | 0 | 0 | | | |
| 金融支援（経営指導型） | 支援数 | 137 | 137 | 100.0% | 5 | |
| マル経融資等の返済条件緩和支援 | 事業所 | 0 | 0 | | | |
| 資金繰り計画作成支援 | 事業所 | 0 | 0 | | | |
| 記帳支援 | 事業所 | 43 | 43 | 100.0% | 5 | |
| 労務支援 | 支援数 | 42 | 42 | 100.0% | 5 | |
| 人材育成計画作成支援 | 事業所 | 3 | 3 | 100.0% | 5 | |
| マーケティング力向上支援 | 事業所 | 0 | 0 | | | |
| 販路開拓支援 | 支援数 | 17 | 17 | 100.0% | 5 | |
| 事業計画作成支援 | 支援数 | 6 | 6 | 100.0% | 5 | |
| 創業支援 | 事業所 | 0 | 0 | | | |
| 事業継続計画（BCP）等作成支援 | 事業所 | 87 | 87 | 100.0% | 5 | |
| コスト削減計画作成支援 | 事業所 | 35 | 35 | 100.0% | 5 | |
| 財務分析支援 | 事業所 | 1 | 1 | 100.0% | 5 | |
| 5S支援 | 事業所 | 3 | 3 | 100.0% | 5 | |
| IT化支援 | 事業所 | 21 | 21 | 100.0% | 5 | |
| 債権保全計画作成支援 | 事業所 | 0 | 0 | | | |
| 事業承継支援 | 事業所 | 0 | 0 | | | |
| 災害時対応支援 | 事業所 | 0 | 0 | | | |
| フォローアップ支援 | 事業所 | 0 | 0 | | | |
| 結果報告 | 事業所 | 339 | 339 | 100.0% | 5 | |
| Ⅱ 専門相談支援事業 | | | | | | |
| 支援のポイント・成果 | | | | | | |
| 新型コロナウイルス感染症が、5類感染症に移行したものの、まだまだ影響がある事業所もある中で、着実に経営改善している事業所もあり、個人から法人化に移行し、より拡大を目指す上で、不足する方向性について司法書士等に依頼し、導入の是非などについての無料相談による適正な環境構築について知識習得を支援した。また、最低賃金等も増加する中で、法令改正も多い労務について相談機会を提供した。 | | | | | | |
| 事業名 | 新規/継続 | 指標 | 目標数値 | 実績数値 | 達成率 | 事業評価 |
| 法務相談 | | | | | | |
| 税務相談 | 継続 | 支援日数 | 10 | 0 | 0.0% | 1 |
| 金融相談 | | | | | | |
| 労務相談 | 継続 | 支援日数 | 10 | 9 | 90.0% | 5 |
| その他相談 | 継続 | 支援日数 | 10 | 21 | 210.0% | 5 |

4. 地域活性化事業

富田林商工会

| Ⅲ 地域活性化事業 | | | | | | | | | | |
|--|--------------------|--------|-----|--------|--------|---|-----|--------|--------|------|
| 支援のポイント・成果 | | | | | | | | | | |
| <p>地域小規模事業者の持続的発展を目的に、地域での活性化を図りながら事業を計画、実施した。今回、新たな取り組みとして南河内特産品ブランディング化推進事業を実施、地域観光資源の活性化を図ることができた。その他の事業については、継続事業として広域事業でITツール活用支援事業を実施、事業者のIT化の促進、DX化の促進を図ることができた。また、地域事業者の販路の拡大、新規顧客の開拓等を拡充するため、富田林バル事業、地域ブランド開拓、情報発信事業などを実施、地域事業者の情報力の強化につなげることができた。創業者の育成支援を目的に創業促進事業を実施、創業意欲の高揚や創業セミナー受講者間での交流の促進など、創業者育成につなげることができた。</p> <p>地域活性化事業を実施したことで、販路の拡充、情報発信力の強化など地域事業者のニーズに沿った事業を実施することにより、一定の効果はあったと感じられる。また、地域活性化事業（単独事業及び各地域と連携した広域事業）を実施したことにより、事業者の知識向上、広域での販路の拡大、新規顧客の獲得など地域小規模事業者（支援事業所）の成長改善等に貢献することができた。</p> | | | | | | | | | | |
| (1) 単独事業 | | | | | | | | | | |
| 府施策連携 | 事業名 | 総支援企業数 | | 支援実績率 | 利用者満足率 | 目標の指標 | | | | 事業評価 |
| | | 計画 | 実績 | | | 項目 | 目標値 | 実績 | 達成率 | |
| | 地域ブランド開拓、情報発信事業 | 61 | 61 | 100.0% | 100% | 農商工事業者の自社製品（商品）の販路拡大/新規顧客の開拓につながったと回答した事業者の割合 | 70% | 99.1% | 141.6% | 5 |
| | とんだばやしバル事業 | 60 | 56 | 93.3% | 91.1% | 事業を実施したことにより販路の拡大、新規顧客の獲得につながったと回答した割合 | 70% | 89.3% | 127.6% | 5 |
| ○ | 雇用管理労務対策セミナー | 30 | 28 | 93.3% | 96.4% | 雇用管理について理解を深めることができた企業割合 | 70% | 96.4% | 137.7% | 5 |
| ○ | BCP普及啓発事業 | 22 | 14 | 63.6% | 100% | 簡易版BCP作成シート作成企業数 | 20 | 14 | 70.0% | 3 |
| ○ | カーボンニュートラル、脱炭素推進事業 | 20 | 15 | 75.0% | 100% | 脱炭素に関する知識が向上し、今後、事業活動の中で推進していこうと考えている企業割合 | 70% | 75.0% | 107.1% | 5 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| (2) 広域事業（幹事業のみ） | | | | | | | | | | |
| 府施策連携 | 事業名 | 総支援企業数 | | 支援実績率 | 利用者満足率 | 目標の指標 | | | | 事業評価 |
| | | 計画 | 実績 | | | 項目 | 目標値 | 実績 | 達成率 | |
| | ITツール活用支援事業 | 105 | 114 | 108.6% | 96.5% | ITツール活用知識の向上や販路拡大することによる売上増加企業割合 | 70% | 99.1% | 141.6% | 5 |
| ○ | 製品・商品・サービス魅力強化発信事業 | 25 | 10 | 40.0% | 90% | 自社での取り組みを推進していこうと考えている企業割合 | 80% | 100.0% | 125.0% | 3 |
| ○ | 創業促進事業 | 86 | 104 | 120.9% | 88.5% | 創業意識が向上した割合（アンケート） | 70% | 92.3% | 131.9% | 5 |
| ○ | 南河内特産品ブランディング化推進事業 | 32 | 32 | 100.0% | 96.9% | 農商工事業者の自社商品（製品）の販路拡大/新規顧客の開拓につながったと回答した事業者の割合 | 70% | 100.0% | 142.9% | 5 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

※府施策連携事業は、「府施策連携」欄に○をつけてください。各欄の記載は、個別調書の記載と合わせてください。

| 令和6年度（2024年度）小規模事業経営支援事業 | | | | | | | | | | 地域活性化事業実績報告書 | | |
|--------------------------|---------------------------------|--|---|---------------------------------|------------|---------|--|-------|--------|--------------|--------|--|
| 富田林商工会 | | | | | | | | | | | | |
| 事業名 | | 地域ブランド開拓、情報発信事業 | | | | | | | | | | |
| 想定する実施期間 | | H22 年度～ | | 年度まで ※複数年度段階的实施事業は別紙にて計画を提出すること | | | | | | | | |
| 事業の概要 | 事業の目的 （現状や課題をどのような状態にしたいか） | 商工会管内小規模事業所において、商品力はあるが販売ルートが確立されていなかったり、事業展開が思うように進んでいない商品（製品）が多々ある。そのような商品（製品）をブランド商品として認定、PRすることにより販路の拡大や新規顧客の開拓等新たな事業展開を支援する。また、特産品をブランド化し情報発信することにより、地域の観光事業の活性化が図れ、地域振興や商工業発展に貢献することができる。 | | | | | | | | | | |
| | 支援する対象 （業種・事業所数等） | 商工会管内の小売、サービス、製造、農林業等含めた全事業者 | | | | | | | | | | |
| | 実施時期・具体的な内容及び事業手法 | ○市広報やHP等でブランド認定事業者を募集し、年1回富田林ブランド認定審査会を実施、認定商品を選定する。（今年度は新たに1事業所1商品を選定した。）認定商品に選ばれたブランド商品については事業者へ認定証、ブランド認定ロゴシールを発行する。また、大阪府内外でのイベント等PR可能な場所へはブランド認定委員会として出店しブランド商品の積極的な告知活動を実施した。また、認定委員会HPから各認定事業者HPへ誘導し、消費者が直接購入できるような仕組みを作り、市町村と広域連携しながら南河内ブランド商品のPRを実施することができた。 ○太子町、河南町、千早赤阪村の特産品を南河内ブランド商品として地元の季節ごとのイベントでのPR販売を実施した。 ○地域で展示即売会を実施し、ブランド商品及び地域特産品のPR販売を実施し、地域で作られたものであるということを消費者に知ってもらう機会を提供した。 ○事業全体に係るPRについては、今年度もHPを活用した販促活動を一部実施した。さらに新規顧客の獲得につながるような販売促進活動を強化した。 ○地域で数回展示販売会を実施し、ブランド商品及び地域特産品のPR活動を実施した。 | | | | | | | | | | |
| | | <事業手法（①府施策連携・②広域連携・③市町村連携・④相談事業相乗効果）の具体的な連携・効果を記載> | | | | | | | | | | |
| | | ①府施策連携 | | | | | | | | | | |
| | | ②広域連携 | | | | | | | | | | |
| | | ③市町村連携 | 富田林市ブランド認定委員会へのオブザーバーとしての参画。また、ブランド認定事業者募集記事の市広報への掲載。市町村と連携することで事業効果を高めることができた。 | | | | | | | | | |
| ④相談相乗 | | | | | | | | | | | | |
| 事業全体の実績／目標達成度 | 計画に対する実績（数値） | 総支援企業数(計画) | 61.0 | | 総支援企業数(実績) | 61.0 | | 支援実績率 | 100.0% | 満足率 | 100.0% | |
| | 目標の達成度 （支援企業をどう変化させることができたか） | ①新たに1社（1商品）を認定した。認定商品も33社37商品になり認知度向上につなげることができた。 ②今年度は各地でイベントが積極的に実施されたため、各事業者へ参加推奨を実施し、地域内外のイベントに参加することで販売促進活動を実施することができた。 ③富田林市観光協会等と連携し、地域のイベントに合わせて富田林ブランド商品の展示会等を実施し、広く消費者にアピールすることができた。 ④販売促進につながるようパンフレットを作成し、消費者へのアピールに努めた。 ⑤富田林市と連携し、6次産業のブランド登録促進に努めた。 | | | | | | | | | | |
| | | 代表指標 | 工事業者の自社製品（商品）の販路拡大/新規顧客の開拓につながったと回答した事業者の | | | | | | | | | |
| | | 数値目標 | 70% | | 実績数値 | 99.1% | | 目標達成度 | 141.6% | | | |
| | 成果の代表事例 | 富田林市と連携し、6次産業商品のブランド認定を促進することで、新たな事業者の掘り起こしにつなげることができた。 | | | | | | | | | | |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | | | 目標値（実績） | | | | 目標達成度 | | |
| | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|------|--|--|
| 実施結果 | 課題及び次期以降への取組み (実績が目標値に達していない場合は、その理由や今後どのようにフォローするのか) | 本年度は地域内外で多くのイベントが開催され、積極的にイベントに参加することで販売促進活動を実施することができたが、参加事業者の中には、新規顧客の獲得に苦慮するところもあったため、次年度は更に積極的に販売促進活動を推進するとともにSNSやHP、パンフレットのリニューアル等も視野に入れて、情報発信の強化を図りながら、事業者の新たな販路の拡大と新規顧客の獲得につなげていきたいと考える。また、期間限定で富田林市と連携し大阪万博へのPR参加を推進する事業展開を実施する。 |
|------|--|--|

【別紙】複数の事業目標を設定している場合は、別紙に事業目標毎の実績／達成度をご記入ください。

| | | | | | | | | | |
|---------|-----------------------------|---|-----------------------|-----------|-------|-------|--------|-----|--------|
| 実績／達成度① | 計画に対する実績（数値） | 支援企業数(計画) | 3.0 | 支援企業数(実績) | 1.0 | 支援実績率 | 33.3% | 満足率 | 100.0% |
| | 目標の達成度（支援企業をどう変化させることができたか） | 地元に根付いた事業者であり、地域の特産品であることをPRするとともに、自社のPRができ、来店者の増加、売上の増加につながった。 | | | | | | | |
| | | 指標 | 自社製品の販路の拡大ができたと回答した割合 | | | | | | |
| | | 数値目標 | 70% | 実績数値 | 100% | 目標達成度 | 142.9% | | |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | 目標値（実績） | | 目標達成度 | | | |
| 実績／達成度② | 計画に対する実績（数値） | 支援企業数(計画) | 29.0 | 支援企業数(実績) | 32.0 | 支援実績率 | 110.3% | 満足率 | 100.0% |
| | 目標の達成度（支援企業をどう変化させることができたか） | 地元に根付いた事業者であり、地域の特産品であることをPRするとともに、自社のPRができ、来店者の増加、売上の増加につながった。 | | | | | | | |
| | | 指標 | 自社製品の販路の拡大ができたと回答した割合 | | | | | | |
| | | 数値目標 | 70% | 実績数値 | 90.6% | 目標達成度 | 129.4% | | |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | 目標値（実績） | | 目標達成度 | | | |
| 実績／達成度③ | 計画に対する実績（数値） | 支援企業数(計画) | 12.0 | 支援企業数(実績) | 11.0 | 支援実績率 | 91.7% | 満足率 | 100.0% |
| | 目標の達成度（支援企業をどう変化させることができたか） | 地元に根付いた事業者とともに新規事業者も参加し、地域の特産品であることをPRするとともに、自社のPRができ、来店者の増加、売上の増加につながった。 | | | | | | | |
| | | 指標 | 自社製品の販路の拡大ができたと回答した割合 | | | | | | |
| | | 数値目標 | 70% | 実績数値 | 90.9% | 目標達成度 | 129.9% | | |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | 目標値（実績） | | 目標達成度 | | | |
| 実績／達成度④ | 計画に対する実績（数値） | 支援企業数(計画) | 17.0 | 支援企業数(実績) | 17.0 | 支援実績率 | 100.0% | 満足率 | 100.0% |
| | 目標の達成度（支援企業をどう変化させることができたか） | 地元に根付いた事業者であり、地域の特産品であることをPRするとともに、自社のPRができ、来店者の増加、売上の増加につながった。 | | | | | | | |
| | | 指標 | 自社製品の販路の拡大ができたと回答した割合 | | | | | | |
| | | 数値目標 | 70% | 実績数値 | 82.3% | 目標達成度 | 117.6% | | |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | 目標値（実績） | | 目標達成度 | | | |

| 令和6年度（2024年度）小規模事業経営支援事業 | | | | | 地域活性化事業実績報告書 | | | | |
|--------------------------|--|--|---|------------|--------------|-------|--------|-----|-------|
| 富田林商工会 | | | | | | | | | |
| 事業名 | | 雇用管理労務対策セミナー | | | | | | | |
| 想定する実施期間 | | 29 年度～ 年度まで ※複数年段階的实施事業は別紙にて計画を提出すること | | | | | | | |
| 事業の概要 | 事業の目的 （現状や課題をどのような状態にしたいか） | 近年、長時間労働など様々な労働に関する諸問題が取り沙汰されており、雇用主、被雇用者及び求職者などから労働環境についての関心が高まっている。それに伴い、管内の事業者では大規模事業者と比べ労働環境の整備が不十分であることから、求職者からの関心が離れる傾向にあり人手不足に陥っている。そのため、労働環境を整備し従業員の定着と人材不足を解消するため、専門家による雇用管理セミナーを開催し企業の課題解決につなげることを目的とする。また、新型コロナウイルス感染症への対策として、雇用維持のための調整助成金等の活用や多様で柔軟な働き方の導入も目的とする。 | | | | | | | |
| | 支援する対象 （業種・事業所数等） | 管内の従業員を雇用する企業（全業種） 小規模事業者並びに中小企業の人事・労務担当者 | | | | | | | |
| | 実施時期・具体的な内容及び事業手法 | ①開催日時：令和6年7月18日（木）午後1時30分～午後4時 開催場所：富田林市市民会館 1階 大会議室 開催内容：労務実務担当者講習会 参加企業数：28社 | | | | | | | |
| | | <事業手法（①府施策連携・②広域連携・③市町村連携・④相談事業相乗効果）の具体的な連携・効果を記載> | | | | | | | |
| | | ①府施策連携 | 大阪府と連携を図りながら事業を企画、運営、実施したことで、円滑な開催につながった。 | | | | | | |
| ②広域連携 | | | | | | | | | |
| 事業全体の実績／目標達成度 | 計画に対する実績（数値） | 総支援企業数(計画) | 30.0 | 総支援企業数(実績) | 28.0 | 支援実績率 | 93.3% | 満足率 | 96.4% |
| | | 計画していた支援企業数を下回ってしまったが、参加企業からのセミナー内容の満足度は高く、成果はあったと考える。労働関係法の変更点や改正点（労働条件明示 無期転換の新ルール等）などの知識の向上、また、時間外労働や年次有給休暇等の基本的な部分の理解力の向上など、事業所内での労務管理へのスキルアップに繋げることができたと考える。 | | | | | | | |
| | 目標の達成度 （支援企業をどう変化させることができたか） | 代表指標 | 雇用管理について理解を深めることができた企業割合 | | | | | | |
| | | 数値目標 | 70% | 実績数値 | 96.4% | 目標達成度 | 137.7% | | |
| | 成果の代表事例 | セミナーを受講したことで、労務管理に対しての知識が向上した。今までできていなかった部分などの再確認にも繋がり、社内の環境整備に繋げることができた。 | | | | | | | |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | 目標値（実績） | | | 目標達成度 | | | |
| | | | | | | | | | |
| 実施結果 | 課題及び次期以降への取組み（実績が目標値に達していない場合は、その理由や今後どのようにフォローするのか） | 計画していた支援企業数より少ない実績となってしまったが、セミナー自体の満足度は高く、今後も引き続き実施していきたいと考える。また、より内容の良いセミナーにするためにも監督署やハローワークとの連携をさらに深めていきたい。 | | | | | | | |

| 令和6年度（2024年度）小規模事業経営支援事業 | | | | | | | | | | 地域活性化事業実績報告書 | |
|--------------------------|--|---|---|------------|------|---------|-------|-----|--------|--------------|--|
| 富田林商工会 | | | | | | | | | | | |
| 事業名 | | BCP普及啓発事業 | | | | | | | | | |
| 想定する実施期間 | | R3 年度～ 年度まで ※複数年度段階的实施事業は別紙にて計画を提出すること | | | | | | | | | |
| 事業の概要 | 事業の目的 (現状や課題をどのような状態にしたいか) | 平成30年度に大阪府北部を震源とする地震、平成30年7月豪雨、台風19～21号など小規模事業業者に甚大は影響を及ぼす大規模災害が相次いだ。近年は、大規模な直下型地震や南海トラフ地震など大規模地震の発生も想定される中で、個々の小規模事業者の経営だけでなく、サプライチェーンにも大きな影響を与えるおそれがある。大企業では、事前対策の取組が進んでいる一方で、小規模事業者における災害への備えの取組は一部にとどまっており、経営資源が脆弱な小規模事業者は、ひとたび被災すると経営に大きな影響を受ける可能性が高いと考えられる。このような中で、当会として「事業継続力強化支援計画」を令和2年12月に申請し、令和3年4月より実施しており、関係市町村と連携し、自然災害等に備える小規模事業者の取組を支援し、体制、取組を強化することで、持続的発展につなげる。 | | | | | | | | | |
| | 支援する対象 (業種・事業所数等) | 管内小規模事業者を対象とする。 | | | | | | | | | |
| | 実施時期・具体的な内容及び事業手法 | 事業継続、計画策定セミナーを開催。 開催日時：令和6年12月9日(月)午後2時から 開催場所：富田林商工会館 会議室 開催内容：事業継続の基礎知識、超簡易版BCPシートの策定 参加企業数：14社 | | | | | | | | | |
| | | <事業手法（①府施策連携・②広域連携・③市町村連携・④相談事業相乗効果）の具体的な連携・効果を記載> | | | | | | | | | |
| | | ①府施策連携 | 大阪府と連携することで、BCP計画の必要性を円滑に説明することができたとともに、簡易シートの作成についてもスムーズに実施することができた。 | | | | | | | | |
| | | ②広域連携 | | | | | | | | | |
| ③市町村連携 | 市町村と連携し効果的なPRを行うとともに各行政の施策等を促進することができた。 | | | | | | | | | | |
| ④相談相乗 | | | | | | | | | | | |
| 事業全体の実績／目標達成度 | 計画に対する実績（数値） | 総支援企業数(計画) | 22.0 | 総支援企業数(実績) | 14.0 | 支援実績率 | 63.6% | 満足率 | 100.0% | | |
| | 目標の達成度 (支援企業をどう変化させることができたか) | 計画より実績が下回ったが予定通り開催することができた。 第1部の「事業継続の基礎知識」について講師と打合せし、昨年よりも地域の環境に沿った内容にしたことで満足度は上昇した。南河内地域の災害想定なども解説していただいたため、参加事業所にはBCP策定の意識を高め、被災した際の事業継続・早期復旧に繋げることができた。 また、受講者等には再度面談・指導しBCPの再策定・更新を進めることができた。 | | | | | | | | | |
| | | 代表指標 | 簡易版BCP作成シート作成企業数 | | | | | | | | |
| | | 数値目標 | 20社 | 実績数値 | 14社 | 目標達成度 | 70.0% | | | | |
| | 成果の代表事例 | セミナーを受講し、簡易版のBCP作成シートを作ったことで、自社での取り組みの必要性を再認識し、専門的な相談につなげることにより、BCP計画の策定に進めることができた。 | | | | | | | | | |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | | | 目標値（実績） | | | | 目標達成度 | |
| | | | | | | | | | | | |
| 実施結果 | 課題及び次期以降への取組み (実績が目標値に達していない場合は、その理由や今後どのようにフォローするのか) | セミナー参加者の満足度は上昇したが計画に対して実績が下回っており、集客方法に課題があると考えている。 既存のメルマガや郵送での募集以外に日頃の経営指導からBCPの策定状況について確認し、未策定の方にはBCPの重要性を直接説明しセミナー参加を促す。 また、南海トラフ地震及び自然災害を想定した講演内容としているが、会員事業所に次回の希望内容を聞き取りサイバーセキュリティを想定した講演を予定している。 | | | | | | | | | |

【別紙】複数の事業目標を設定している場合は、別紙に事業目標毎の実績／達成度をご記入ください。

| | | | | | | | | | |
|---------|-----------------------------|--|-----------------------------|-----------|---------|-------|--------|-------|--------|
| 実績／達成度① | 計画に対する実績（数値） | 支援企業数(計画) | 20.0 | 支援企業数(実績) | 12.0 | 支援実績率 | 60.0% | 満足率 | 100.0% |
| | 目標の達成度（支援企業をどう変化させることができたか） | セミナーを受講することで、大規模災害に対応できる知識と対応力の向上、簡易版BCPの作成につながった。 | | | | | | | |
| | | 指標 | 簡易版BCP作成シート作成企業数 | | | | | | |
| | | 数値目標 | 20社 | | 実績数値 | 12社 | | 目標達成度 | 60.0% |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | | 目標値（実績） | | | 目標達成度 | |
| | | | | | | | | | |
| 実績／達成度② | 計画に対する実績（数値） | 支援企業数(計画) | 2.0 | 支援企業数(実績) | 2.0 | 支援実績率 | 100.0% | 満足率 | 100.0% |
| | 目標の達成度（支援企業をどう変化させることができたか） | セミナーを受講することで、大規模災害に対応できる知識と対応力の向上、簡易版BCPの作成を実施したことにより、具体的なBCP策定につながった。 | | | | | | | |
| | | 指標 | BCPの知識向上、具体的なBCP策定につながった企業数 | | | | | | |
| | | 数値目標 | 2 | | 実績数値 | 2 | | 目標達成度 | 100.0% |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | | 目標値（実績） | | | 目標達成度 | |
| | | | | | | | | | |

| 令和6年度（2024年度）小規模事業経営支援事業 | | | | | 地域活性化事業実績報告書 | | | | |
|--------------------------|--|---|---|---------------------------------|--------------|-------|-------|-------|--------|
| 富田林商工会 | | | | | | | | | |
| 事業名 | | カーボンニュートラル、脱炭素推進事業 | | | | | | | |
| 想定する実施期間 | | R5 年度～ | | 年度まで ※複数年度段階的实施事業は別紙にて計画を提出すること | | | | | |
| 事業の概要 | 事業の目的 （現状や課題をどのような状態にしたいか） | 気候変動の原因となっている温室効果ガスは、経済活動・日常生活に伴い排出されており、ライフスタイルに起因する温室効果ガスが我が国全体の排出量の約6割を占めるという分析もあり、国や自治体、事業者だけの問題でない。 これからのカーボンニュートラル、脱炭素の実現に向けて、あらゆる主体が取り組み、また、安心して暮らせる持続可能な経済社会をつくるための脱炭素社会の実現に向け企業として取り組み、推進することにより自社の付加価値を高め、新たなビジネス転換、新事業展開につなげることで、新たな取引先の獲得やビジネスチャンスにつなげることを目的とする。 | | | | | | | |
| | 支援する対象 （業種・事業所数等） | 管内小規模事業者を対象とする。 | | | | | | | |
| | 実施時期・具体的な内容及び事業手法 | 脱炭素経営セミナー 開催日時：令和6年11月26日（火）午後2時～午後4時 開催場所：富田林商工会館 2階 会議室 開催内容：①脱炭素化に向けた今後の展望と経済産業局の政策動向 ②大阪府の脱炭素経営に関する支援策の説明 ③CO2排出量可視化・SBT取得の重要性について 参加企業数：15社 ＜事業手法（①府施策連携・②広域連携・③市町村連携・④相談事業相乗効果）の具体的な連携・効果を記載＞ | | | | | | | |
| | | ①府施策連携 | 大阪府と連携し、本事業を企画・運営することができた。 | | | | | | |
| | | ②広域連携 | | | | | | | |
| ③市町村連携 | | 富田林市・河南町・太子町・千早赤阪村と連携し、本事業を企画・運営することができた。 | | | | | | | |
| | ④相談相乗 | | | | | | | | |
| 事業全体の実績／目標達成度 | 計画に対する実績（数値） | 総支援企業数(計画) | 20.0 | 総支援企業数(実績) | 15.0 | 支援実績率 | 75.0% | 満足率 | 100.0% |
| | 目標の達成度 （支援企業をどう変化させることができたか） | 最新のカーボンニュートラル、脱炭素化についての現状、今後の動向等の情報提供、また、中小企業が活用できる国の支援策、大阪府の省エネ・省CO2関連施策補助金についての説明や、CO2排出量可視化の重要性、また、中小企業版SBTを取得することの重要性についての説明もあり、脱炭素化についての知識の向上につながった。 | | | | | | | |
| | | 代表指標 | 脱炭素に関する知識が向上し、今後、事業活動の中で推進していこうと考えている企業割合 | | | | | | |
| | | 数値目標 | 70% | | 実績数値 | 75.0% | | 目標達成度 | 107.1% |
| | 成果の代表事例 | 本セミナーを受講した情報を活かし、社内研修等を開催し社員の知識向上を目指す事業所が見受けられた。また本セミナー出席者の同業種団体で脱炭素が話題に上がる等の周知効果も見受けられる。 | | | | | | | |
| その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | | | 目標値（実績） | | | 目標達成度 | |
| | | | | | | | | | |
| 実施結果 | 課題及び次期以降への取組み（実績が目標値に達していない場合は、その理由や今後どのようにフォローするのか） | 令和5年度と同様に参加事業者が特定の業種に偏ってしまったため、今後はより多様な業種の事業者にも周知しその対象としたい。また、受講者の予備知識にばらつきがあることと、複数の講師によるセミナーであったためスムーズな進行ができなかったため、次期以降のセミナー内容は十分に精査する必要がある。 | | | | | | | |

| 令和6年度（2024年度）小規模事業経営支援事業 | | | | | | | | | | 地域活性化事業実績報告書 | |
|--------------------------|-------------------------------------|--|---|-------|-------|--------|-----|-------|--|--------------|--|
| 富田林商工会 | | | | | | | | | | | |
| 事業名 | | I Tツール活用支援事業 | | | | | | | | | |
| 想定する実施期間 | | H23 年度～ 年度まで ※複数年段階の実施事業は別紙にて計画を提出すること | | | | | | | | | |
| 事業の概要 | 事業の目的 （現状や課題をどのような状態にしたいか） | ○事業を多角的に展開する上でI Tツールの活用は必要不可欠である。そこで、今話題性のあるソーシャルネットワークサービス等の講習会を実施することにより、企業内でのI T化の促進、I Tスキルの向上や販路拡大、I Tを導入することによる業務の効率化等が図れるように支援することを目的とする。 | | | | | | | | | |
| | 支援する対象 （業種・事業所数等） | ○南河内地域の中小企業、小規模事業者を対象とする。 | | | | | | | | | |
| | 実施時期・具体的な内容及び事業手法 | Aコース 開催日時：8月1日、8月8日、8月22日 午後2時～午後4時 開催場所：富田林商工会 開催内容：『C h a t G P Tでできること：超初心者向け入門講座』 参加企業数：26社 Bコース 開催日時：8月28日、9月4日、9月11日 午後2時～午後4時 開催場所：大阪狭山市商工会 開催内容：『S N SとA Iの初歩：やさしく学ぶ効率化のコツ』 参加企業数：25社 Cコース 開催日時：9月17日、9月24日、10月1日 午後2時～午後4時 開催場所：河内長野市商工会 開催内容：『A Iビジネス効率アップ：初めてのステップ』 参加企業数：24社 Dコース 開催日時：10月4日、10月25日、10月29日 午後2時～午後4時 開催場所：富田林市市民会館 開催内容：「中小企業のための“勝てる”集客戦略セミナー」 参加企業数：39社 ＜事業手法（①府施策連携・②広域連携・③市町村連携・④相談事業相乗効果）の具体的な連携・効果を記載＞ | | | | | | | | | |
| | | ①府施策連携 | | | | | | | | | |
| | | ②広域連携 | 各商工会で事業P R、参加事業所募集を実施した結果、非常に多くの参加につながった。また、地域外の事業所とのつながりができ、新たな販路の開拓につなげることができた。 | | | | | | | | |
| | | ③市町村連携 | | | | | | | | | |
| | | ④相談 | カルテ化事業者の地域活性化事業への参加促進や地域活性化事業参加事業者をカルテ化することによる効率的な支援を行った。 | | | | | | | | |
| 計画に対する実績（数値） | 総支援企業数(計画) | 105.0 | 総支援企業数(実績) | 114.0 | 支援実績率 | 108.6% | 満足率 | 96.5% | | | |
| 事業全体の実績／目標達成度 | 目標の達成度 （支援企業をどう変化させることができたか） | ①「C h a t G P Tでできること：超初心者向け入門講座」について、販売促進活動を推進する上で大事なツールのひとつであり、簡単にかつ効果的なツールでもあるので非常に取り組みやすく、満足度も高かった。 ②「S N SとA Iの初歩：やさしく学ぶ効率化のコツ」について、情報発信力の強化にはS N Sツールが必要不可欠であり、マーケティング戦略でも必須のツールなので事業者の関心も高く、満足度も高かった。S N Sの活用が非常に大事であり、活用することで販売を促進することができ、売上増加に繋がった。 ③「A Iビジネス効率アップ：初めてのステップ」について、A Iを活用してS N Sツールを効果的に活かした情報発信を行うことで即効性が高い、販路拡大に繋げることができた。 ④「中小企業のための“勝てる”集客戦略セミナー」①②③のセミナーを踏まえた上で、S N Sの重要性、S N Sでの発信力強化に繋がるセミナーを実施。トータル的な情報発信力を強化することができ、売上の増加、新規顧客の獲得に繋げることができた。 | | | | | | | | | |
| | | 代表指標 | I Tツール活用知識の向上や販路拡大することによる売上増加企業割合 | | | | | | | | |
| | 数値目標 | 70% | 実績数値 | 99.1% | 目標達成度 | 141.6% | | | | | |
| 事業全体の実績／目標達成度 | 成果の代表事例 | セミナーを受講したことで、今まで活用していた形とは違った活用方法を知ることができ、効果的なツールを事業で使えることができたことで、販売促進に繋げることができた。 | | | | | | | | | |

| | その他目標値の実績 | 目標値 (計画) | 目標値 (実績) | 目標達成度 |
|------|--|--|-------------|-------|
| 実施結果 | 課題及び次期以降への取組み（実績が目標値に達していない場合は、その理由や今後どのようにフォローするのか） | SNSなどの販促ツールの活用方法などは日々変化しており、それに対応できるようなセミナーの開催内容が望まれる。事業者のニーズをより把握し、情報発信力の強化に繋げたい。 | | |

【別紙】複数の事業目標を設定している場合は、別紙に事業目標毎の実績／達成度をご記入ください。

| | | | | | | | | | |
|---------|-----------------------------|---|----------------------------------|-----------|--------|-------|--------|-----|--------|
| 実績／達成度① | 計画に対する実績（数値） | 支援企業数(計画) | 22.0 | 支援企業数(実績) | 26.0 | 支援実績率 | 118.2% | 満足率 | 100.0% |
| | 目標の達成度（支援企業をどう変化させることができたか） | セミナーを受講したことにより、ITツールをより活用する機会が増え、売上の増加、新規顧客の獲得につながった。 | | | | | | | |
| | | 指標 | ITツール活用知識の向上や販路拡大することによる売上増加企業割合 | | | | | | |
| | | 数値目標 | 70% | 実績数値 | 100.0% | 目標達成度 | 142.9% | | |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | 目標値（実績） | | 目標達成度 | | | |
| | | | | | | | | | |
| 実績／達成度② | 計画に対する実績（数値） | 支援企業数(計画) | 22.0 | 支援企業数(実績) | 25.0 | 支援実績率 | 113.6% | 満足率 | 96.0% |
| | 目標の達成度（支援企業をどう変化させることができたか） | セミナーを受講したことにより、ITツールをより活用する機会が増え、売上の増加、新規顧客の獲得につながった。 | | | | | | | |
| | | 指標 | ITツール活用知識の向上や販路拡大することによる売上増加企業割合 | | | | | | |
| | | 数値目標 | 70% | 実績数値 | 96.0% | 目標達成度 | 137.1% | | |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | 目標値（実績） | | 目標達成度 | | | |
| | | | | | | | | | |
| 実績／達成度③ | 計画に対する実績（数値） | 支援企業数(計画) | 22.0 | 支援企業数(実績) | 24.0 | 支援実績率 | 109.1% | 満足率 | 95.8% |
| | 目標の達成度（支援企業をどう変化させることができたか） | セミナーを受講したことにより、ITツールをより活用する機会が増え、売上の増加、新規顧客の獲得につながった。 | | | | | | | |
| | | 指標 | ITツール活用知識の向上や販路拡大することによる売上増加企業割合 | | | | | | |
| | | 数値目標 | 70% | 実績数値 | 100.0% | 目標達成度 | 142.9% | | |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | 目標値（実績） | | 目標達成度 | | | |
| | | | | | | | | | |
| 実績／達成度④ | 計画に対する実績（数値） | 支援企業数(計画) | 39.0 | 支援企業数(実績) | 39.0 | 支援実績率 | 100.0% | 満足率 | 94.9% |
| | 目標の達成度（支援企業をどう変化させることができたか） | セミナーを受講したことにより、ITツールをより活用する機会が増え、売上の増加、新規顧客の獲得につながった。 | | | | | | | |
| | | 指標 | ITツール活用知識の向上や販路拡大することによる売上増加企業割合 | | | | | | |
| | | 数値目標 | 70% | 実績数値 | 100.0% | 目標達成度 | 142.9% | | |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | 目標値（実績） | | 目標達成度 | | | |
| | | | | | | | | | |

| 令和6年度（2024年度）小規模事業経営支援事業 | | | | | | | | | | 地域活性化事業実績報告書 | |
|--------------------------|--|--|---|------------|--------|---------|--------|----------------------------|-------|--------------|--|
| 富田林商工会 | | | | | | | | | | | |
| 事業名 | | 製品・商品・サービス魅力強化発信事業 | | | | | | | | | |
| 想定する実施期間 | | R3 | | 年度～ | | 年度まで | | ※複数年度段階的实施事業は別紙にて計画を提出すること | | | |
| 事業の概要 | 事業の目的 （現状や課題をどのような状態にしたいか） | 商工会管内の事業所の製品、商品、サービスは個性的で、魅力的なものが多数存在しているが、製品、商品、サービスの本来持つ力、魅力等を伝えきれていないのが大部分である。見せ方ひとつで受取る側に与えるイメージやそのものの価値などが変わり、製品・商品・サービスに大きな付加価値を加えることができるということを知り、効果的なデザインの活用について学んでもらい、新たな販路の拡大、自社販売力の向上を目指す。そのことにより今後の開発意欲を高め、社内の意識改革、改善につなげる。 | | | | | | | | | |
| | 支援する対象 （業種・事業所数等） | 管内及び河内長野市、大阪狭山市の中小企業、小規模事業者を対象とする。 | | | | | | | | | |
| | | ○セミナー 開催日時：令和6年11月19日（火）PM2：00～PM4：30 開催場所：富田林商工会館 会議室 開催内容：第1部セミナー「デザイン力向上セミナー」第2部「ワークショップ」第3部「大阪府施策の説明」 申込13社13名、出席10社10名 | | | | | | | | | |
| | 実施時期・具体的な内容及び事業手法 | <事業手法（①府施策連携・②広域連携・③市町村連携・④相談事業相乗効果）の具体的な連携・効果を記載> | | | | | | | | | |
| | | ①府施策連携 | 大阪府と連携を図りながら事業を企画、運営、実施したことで、円滑な開催につながった。 | | | | | | | | |
| | ②広域連携 | | | | | | | | | | |
| | ③市町村連携 | 各商工会で事業PR、参加事業所募集を実施した結果、非常に多くの参加につながった。また、地域外の事業所とのつながりができ、新たな販路の開拓につなげることができ | | | | | | | | | |
| | ④相談相乗 | カルテ化事業者の地域活性化事業への参加促進や地域活性化事業参加事業者をカルテ化することによる効率的な支援を行った。 | | | | | | | | | |
| 事業全体の実績／目標達成度 | 計画に対する実績（数値） | 総支援企業数(計画) | 25.0 | 総支援企業数(実績) | 10.0 | 支援実績率 | 40.0% | 満足率 | 90.0% | | |
| | 目標の達成度 （支援企業をどう変化させることができたか） | 計画よりも実績が大幅に下回ってしまったが、受講者には好評であった。当初想定していた自社・OEM商品を製造販売している事業者以外にも参加いただいたが、管内の幅広い業種に対応してのものであったため満足度が非常に高かった。セミナー終了後の個別相談も2件あったため引き続き大阪産業局と連携し専門的な支援ができる体制を整えたい | | | | | | | | | |
| | | 代表指標 | 自社での取り組みを推進していこうと考えている企業割合 | | | | | | | | |
| | | 数値目標 | 80% | 実績数値 | 100.0% | 目標達成度 | 125.0% | | | | |
| | 成果の代表事例 | ・セミナーを参考に自社商品のパッケージを見直し、既存顧客よりも若い年齢層への販路開拓に取り組んでいる。 ・求人広告や自社HPのデザインを変更し若い人材へのイメージを変えるべくデザインなどの変更に取り組んでいる。 | | | | | | | | | |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | | | 目標値（実績） | | | | 目標達成度 | |
| | | | | | | | | | | | |
| 実施結果 | 課題及び次期以降への取組み（実績が目標値に達していない場合は、その理由や今後どのようにフォローするのか） | セミナー参加者には好評であったが計画に対して実績が大幅に下回っており、集客方法に課題があると考えている。 また、当日キャンセルが多く開催日の調整が必要である。 今回は好評であったため近い内容で開催したが、参加者が半減しておりテーマの変更が必要であると考えている。内容やテーマとしては、幅広い業種やデザインの悩みに対応するべく講演内容を広げているが、テーマを絞り企画することを見当している。 | | | | | | | | | |

| 令和6年度（2024年度）小規模事業経営支援事業 | | | | | | | | | | 地域活性化事業実績報告書 | |
|--------------------------|---|---|---|------------|-------|-------|--------|-----|-------|--------------|--|
| 富田林商工会 | | | | | | | | | | | |
| 事業名 | | 創業促進事業 | | | | | | | | | |
| 想定する実施期間 | | H29 年度～ 年度まで ※複数年段階の実施事業は別紙にて計画を提出すること | | | | | | | | | |
| 事業の概要 | 事業の目的 （現状や課題をどのような状態にしたいか） | 富田林商工会管内事業数は、販売力の低下、得意先の減少、景気の悪化、後継者不足など多種多様の事情により、減少傾向にあるのが現状である。このような状況の中で、地域内の事業所数を増加させ、地域雇用の増加を図るなど地域活性が急務である。ついては、これから創業を考えている方に必要な情報を提供する機会を設けるとともに、創業しやすい環境を整え企業家育成を促進することを目的とする。 | | | | | | | | | |
| | 支援する対象 （業種・事業所数等） | 主に富田林市、太子町、河南町、千早赤阪村、羽曳野市を中心とした南河内エリアで、創業を希望、検討している方や創業後5年以内の方 | | | | | | | | | |
| | 実施時期・具体的な内容及び事業手法 | 令和6年度実施状況 ①第1回創業セミナー 開催日：令和6年4月30日・5月14日・5月21日・5月28日 開催時間：14時から16時 開催場所：IC羽曳野 会議室 参加者：32名 ②第2回創業セミナー 開催日：令和6年6月27日・7月4日・7月11日・7月25日 開催時間：14時から16時 開催場所：富田林商工会館 会議室 参加者：27名 ③第3回創業セミナー 開催日：令和6年9月19日・9月26日・10月3日・10月17日 開催時間：14時から16時 開催場所：LIC羽曳野 会議室 参加者：31名 ④第4回創業セミナー 開催日：令和6年11月22日・11月29日・12月13日・12月20日 開催時間：14時から16時 開催場所：富田林商工会館 会議室 参加者：8名 ⑤創業希望者に対するトータルの支援を行う。（ハンズオン支援） | | | | | | | | | |
| | | <事業手法（①府施策連携・②広域連携・③市町村連携・④相談事業相乗効果）の具体的な連携・効果を記載> | | | | | | | | | |
| | | ①府施策連携 | 大阪府と連携し、創業を促進できる施策等を紹介、創業意欲の向上につなげた | | | | | | | | |
| | | ②広域連携 | 広域連携することで、参加者の増加、創業に向けて近隣地域でのネットワークが構築できた。 | | | | | | | | |
| | | ③市町村連携 | 管内市町村において、事業に関しての広報等を依頼。広くPRすることで、事業効果を高めることができた。 | | | | | | | | |
| ④相談相乗 | カルテ化事業者の地域活性化事業への参加促進や地域活性化事業参加事業者をカルテ化することによる効率的な支援を行った。 | | | | | | | | | | |
| 事業全体の実績／目標達成度 | 計画に対する実績（数値） | 総支援企業数(計画) | 86.0 | 総支援企業数(実績) | 104.0 | 支援実績率 | 120.9% | 満足率 | 88.5% | | |
| | 目標の達成度 （支援企業をどう変化させることができたか） | セミナー全体を見ると、総支援企業数（計画）を上回る受講者数があり、創業に対する関心の高さが感じられた。大阪府よろず支援拠点と連携するなど、より専門的なセミナー内容を提供することができ、受講者の満足度も高かったと感じられる。創業スキルの向上につなげることができたと考える。 | | | | | | | | | |
| | | 代表指標 | 創業意識が向上した割合（アンケート） | | | | | | | | |
| | | 数値目標 | 70% | 実績数値 | 92.3% | 目標達成度 | 131.9% | | | | |
| | 成果の代表事例 | セミナーを4回受講し、スキルの向上につながり、事業計画書を作成、特定創業支援証明書の優遇制度を受け、創業につなげることができた。 | | | | | | | | | |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | 目標値（実績） | | 目標達成度 | | | | | |

| 令和6年度（2024年度）小規模事業経営支援事業 | | | | | 地域活性化事業実績報告書 | | | | | |
|--------------------------|--|---|---|--------------------------------|--------------|---------|--------|-----|-------|--|
| 富田林商工会 | | | | | | | | | | |
| 事業名 | | 南河内特産品ブランディング化推進事業 | | | | | | | | |
| 想定する実施期間 | | R6 年度～ | | 年度まで ※複数年段階的实施事業は別紙にて計画を提出すること | | | | | | |
| 事業の概要 | 事業の目的 （現状や課題をどのような状態にしたいか） | 南河内地域内にある特産品やブランド商品（製品）をPRすることにより、新たな顧客の開拓等新事業展開を支援する。また、南河内地域のブランド商品（製品）として情報発信することで相乗効果を高め、地域の観光事業の活性化を図る。 | | | | | | | | |
| | 支援する対象 （業種・事業所数等） | 南河内地域の特産品等を取扱う事業者を対象とする。 | | | | | | | | |
| | 実施時期・具体的な内容及び事業手法 | イベント等での南河内特産品のPR ①大阪狭山市「狭山池祭り」令和6年4月28日（土） 8商品 ②羽曳野市「道の駅・しらとりの郷羽曳野17周年イベント」令和6年6月23日（日） 8商品 ③富田林市「商工祭」令和6年11月2日（土） 8商品 ④河内長野市「商工祭」11月17日（日） 8商品 | | | | | | | | |
| | | <事業手法（①府施策連携・②広域連携・③市町村連携・④相談事業相乗効果）の具体的な連携・効果を記載> | | | | | | | | |
| | | ①府施策連携 | 大阪府と連携することで、より効果的な事業を実施することにつながった。 | | | | | | | |
| | | ②広域連携 | 広域で事業を実施したことにより、事業効果を高めることができた。 | | | | | | | |
| ③市町村連携 | | | | | | | | | | |
| ④相談相乗 | | | | | | | | | | |
| 事業全体の実績／目標達成度 | 計画に対する実績（数値） | 総支援企業数(計画) | 32.0 | 総支援企業数(実績) | 32.0 | 支援実績率 | 100.0% | 満足率 | 96.9% | |
| | 目標の達成度 （支援企業をどう変化させることができたか） | 各種イベントにおいて（年4回）事業を実施したことにより、新規顧客の獲得や新たな販路の開拓など一定の成果はあったと考えられる。また、地域の特産品を取りまとめブランディングしたことにより、より販売効果が高まり商品の認知度を上げることににつながったと感じられる。 | | | | | | | | |
| | | 代表指標 | 農商工事業者の自社商品（製品）の販路拡大/新規顧客の開拓につながったと回答した事業者の割合 | | | | | | | |
| | | 数値目標 | 70% | 実績数値 | 100.0% | 目標達成度 | 142.9% | | | |
| | 成果の代表事例 | 地域イベントに南河内特産品として出店、消費者に対して直接商品の魅力を伝えることにより、新たな販路の拡大につなげることができた。 | | | | | | | | |
| | その他目標値の実績 | 目標値（計画） | | | | 目標値（実績） | | | 目標達成度 | |
| | | | | | | | | | | |
| 実施結果 | 課題及び次期以降への取組み（実績が目標値に達していない場合は、その理由や今後どのようにフォローするのか） | 今年度各地域のイベントに出店、商品をPRすることはできたが、南河内の特産品としての販促物がなかったため、インパクトがなく、次年度はよりアピールできる販促物等を活用し、事業の効果を高めていきたい。 | | | | | | | | |